平成19年第2回相楽郡広域事務組合議会定例会会議録

招集年月日 平成19年11月19日(月)

告示年月日 平成19年11月12日(月)

招集の場所 相楽会館 会議室

開 会 平成19年11月19日(月) 午後2時00分

閉 会 平成19年11月19日(月) 午後5時30分

出席議員(13名)

1番	炭本 範子	2番	酒井 弘一
3番	阪本 明治	4番	山本 喜章
5番	坂本 俊廣	6番	山口 勝己
7番	坪井 久行	8番	今方 晴美
9番	青山 まり子	10番	木村 浩三
11番	山本 敏一	13番	北 猛
14番	奥野 卓士		

欠席議員(1名)

12番 小西 啓

会議録署名議員

3番 阪本 明治 4番 山本 喜章

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の氏名

代表理事(精華町長)	木村 要		
理事(木津川市長)	河井 規子	理事(笠置町長)	中西 巖
理事(和束町長)	堀 忠雄	理事(南山城村長)	手仲 圓容
収入役(精華町副町長)	松尾 清敏		

事務局職員出席者

事務局長 林 幸 造
主査 國 子 慶 順

主幹 福 田 全 克

○議 事 日 程

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 会期の決定
- 第 3 副議長の選挙
- 第 4 議席の指定
- 第 5 相楽郡広域事務組合議会運営委員会委員の選任の件
- 第 6 認定第 1 号 平成 18 年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定の件
認定第 2 号 平成 18 年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定の件
- 第 7 議案第 13 号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の件
- 第 8 議案第 14 号 相楽郡広域事務組合議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の件
議案第 15 号 相楽郡広域事務組合特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の件
- 第 9 議案第 16 号 相楽郡広域事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の件
- 第 10 議案第 17 号 相楽郡広域事務組合分担金条例の一部を改正する条例の件
- 第 11 議案第 18 号 相楽郡広域事務組合廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の件
- 第 12 議案第 19 号 平成 19 年度相楽郡広域事務組合一般会計補正予算（第 1 号）の件

○追加議事日程

- 第 1 閉会中の継続審査の件

平成19年第2回相楽郡広域事務組合議会定例会

平成19年11月19日(月)

相楽会館 会議室

(午後 2時00分 開会)

議長 それでは皆さん、こんにちは。

ただいまの出席議員数は13名であります。

定足数に達しておりますので、ただいまから平成19年第2回相楽郡広域事務組合議会定例会を開会いたします。

なお、和束町議会の小西議長が公務のため欠席されておりますので、ご報告申し上げます。

朝晩めっきり寒くなりました。議員の皆様方には、公私極めてご多用の中、ご参集賜りまして、厚く御礼申し上げます。

経済は好景気が続いておりますが、国や地方の財政状況は年々悪化しております。国・地方の借金は約900兆円余りとなり、危機的な財政状況でもあるわけでございます。本広域事務組合を構成している各市町村におきましても、大変厳しい実情にあると思われまます。

このような状況下で地方分権が進む中、意思決定を担う議会の重要性が高まっているわけでございます。二元代表制や議会の機能及び政策機能を強化し、議会の活性化を図っていくことが求められているわけでございます。本組合議会の運営におきましても、深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日提案されている案件は、平成18年度決算認定及び平成19年度補正予算並びに条例改正の9件であります。いずれも重要な案件でございますので、慎重なご審議の上、適切妥当な結論を得られますようお願いいたします。

開会のごあいさつとさせていただきます。

会議に先立ち、去る5月28日第1回臨時議会以降、新たに当組合議会議員にご就任されました方をご紹介します。

お名前を申し上げますのでその場で起立の上、簡単にごあいさつをお願いしたいと思います。

南山城村議会議員の北猛さんです。

北議員 どうも、初めてでございますので、よろしくお願い申し上げます。

議長 ありがとうございます。

ただいまから、本日の会議を開きます。

代表理事からあいさつを受けたいと思います。

木村代表理事、どうぞ。

木村代表理事 皆さん、こんにちは。

平成19年第2回相楽郡広域事務組合議会定例会をお願いいたしましたところ、皆様方にはご

多用な中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、平素は当組合運営に何かとご理解、ご協力を賜っておりますことに対しまして、この場をおかりいたしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、去る10月22日開催の「平成19年度第5回理事会」におきまして、任期満了に伴う代表理事の改選が行われ、理事の互選によりまして、再度、代表理事に就任させていただきました。任期は申し合わせによりまして2年間でございます。議員の皆様方には、引き続きましてご支援、ご協力、ご理解を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。

また、6月24日に行われました南山城村村長選におきまして、見事ご当選されました手仲村長さんを新たに当組合理事にお迎えし、現在まで理事会運営にあたってくださっております。そして、7月6日からは南山城村議会の北議長様が当組合議会の議員として選出され、本日、ご出席をいただいております。

さて、構成市町村の財政は、景気の回復傾向にあるものの、交付税の抑制や社会福祉費の増加等により、厳しい状況が続いております。そうした中、財源約70%を構成市町村の分担金に依存している当組合といたしましては、事務の効率化を図りながら効果的な組合運営を目指し、経常経費の徹底した節減により歳出を抑える一方、し尿処理事業を中心に、地域住民の期待に的確に答えられるよう、各種事業に取り組んでいるところであります。

ここで、5月28日に開催いたしました臨時議会以降の当組合の主な内容について、ご報告を申し上げます。

まず、大谷処理場運転維持管理業務につきましては、平成17年度より「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」いわゆる「合特法」の趣旨を踏まえた措置として、し尿・浄化槽汚泥収集運搬業者8社で構成されます「京都南部環境事業協同組合」に委託して、業務を遂行しているところでございます。今年度から職員を1名常駐させ、適正に業務が遂行されているかについての監視を強化するとともに、毎月2回、週次会議と月例報告会を定期的に行い、監督・指導しているところであります。

これらのことによりまして適正な処理業務が行なわれ、最終の放流水及びダイオキシン類についても基準値を下回る結果となっております。

次に、し尿くみ取り料金の改正についてであります。各市町村からの代表者、学識経験者で構成されます「衛生手数料等適正化委員会」を設置し、7月から4回にわたり適正料金についての検討が行われ、去る10月22日に答申をいただきました。その答申では、原価計算によりまして10リットル当たり114円41銭となりますが、現時点においては10リットル当たり110円、消費税込みが適正であると考えられる。そのため、今回10リットル当たり110円を引き上げることが必要であると判断するという内容で答申をいただきました。

理事会といたしましては、この答申を重く受けとめ、さまざまな状況を総合的に勘案し、慎重に審議いたしました結果、10リットル当たり110円が適正料金であり、その改定を住民への

周知を含むご理解をいただける間、平成20年10月1日からとすることで、本日提案させていただきます。

次に、相楽会館の維持運営についてであります。平成17年度から18年度にかけて、各町村の総務担当課長等により構成されます「相楽会館の今後のあり方検討会」において、相楽会館の今後のあり方についての方策が検討されてきました。それを受けまして、5市町村の企画担当課長で構成されます「相楽地区広域行政の今後のあり方検討会」を設置し、広域的な観点から利活用の方策がないかについて検討が行われており、今年度中には相楽会館の維持運営についての方針を決定したいと考えているところでございます。

次に、相楽地区環境施設整備検討会についてであります。

相楽郡内における環境施設整備に関する確認書は、平成8年2月26日に当時の7カ町村長により確認をされており、その後、約11年が経過しており、相楽地域を取り巻く環境や、ごみの広域化計画を初め、国・京都府の方針も変化してきているところであります。このような状況から、相楽地区における環境施設整備に当たり、今日的な内容に見直しを図るため、構成市町村の衛生担当課長及び西部塵埃処理組合、東部じんかい処理組合事務局長を委員とし、オブザーバーに京都府山城広域振興局木津総務室長にもご出席いただき、検討をさせているものであります。現在、3回の委員会が開催され、今年度中に答申を取りまとめるとのご報告を受けております。

次に、当組合の分担金の今後のあり方についてでございます。分担金の負担割合については、昨年度から財政担当課長会議を重ねて検討された結果に基づきまして、理事会において確認をしたところであります。負担割合の原理原則としまして、「受益に応じた負担をする」ということであります。組合運営にかかる共通経費（議会費、理事会費、一般管理費、公平委員会費、監査委員費等）については、業務ごとに割合、広域圏30分の8、相楽会館30分の2、し尿処理30分の20を乗じて按分するとともに、今後、西部地域で公共下水道が進みまして、処理の減少や今後の大規模修繕によります大谷処理場運転維持管理費の東部地域での負担増を避けるために、広域的な観点から市町村財政担当課長会議において検討を重ねてまいりました。平成19年2月19日には、基本的な考え方につきまして、当時の7カ町村長が確認書を交換いたしました。その細部について、今年度財政担当課長会議において検討がなされ、平成20年度以降の分担金の取り扱いについて、10月26日開催の理事会におきまして、全員一致で確認をしたところでございます。

最後に、相楽地区ふるさと市町村圏振興事業につきましてでございます。この事業は、ご存じのように7億円の基金の運用益をもってソフト的な事業を推進しておりますが、その中でも、中核的な事業といたしまして、地域の担い手づくりを目指した「相楽ふるさと塾」を実施しております。第14期となります平成19年度におきましても、相楽圏域から32人が受講され、7月から9回の講座を開催し、11月10日には修了式を開催し、31人の受講生が修了されました。また、相楽地区ふるさと市町村圏計画につきましては、今年度中に策定をして、現況調査、各市

町村長の意見聴取を初め、策定業務を進めているところであります。3月定例会には、議会に提案できるよう取り組んでいるところでございます。

さて、今定例議会にご提案申し上げます議案は、平成18年度一般会計歳入歳出決算認定及び特別会計歳入歳出決算認定、相楽郡広域事務組合分担金条例の一部改正など9件であります。ご審議の上、可決認定いただきますようお願い申し上げます。

以上で、ご報告を申し上げます。開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。終わります。

議長 ありがとうございます。

議事日程をご報告申し上げます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第112条の規定により、議長において指名いたします。

3番阪本明治議員、4番山本喜章議員を指名いたします。

日程第2 会期の決定を議題といたします。

お諮りします。本定例会の会期は、去る11月6日開催の議会運営委員会において、本日1日間とすることで決定しておりますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長 異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は、本日1日間に決定いたしました。

日程第3 副議長の選挙を行います。

お諮りいたします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選を行いたいと思っております。

これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選によることに決定いたしました。

お諮りいたします。指名の方法につきましては、議長が指名することにいたしたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長 異議なしと認めます。

よって、議長が指名することに決定いたしました。

さらにお諮りをいたします。

指名に当たりましては、各市町村議会の議長を選考委員にし選考いたしたいと思っております。

なお、和東町議会にあっては小西議員が欠席されておりますので、山口議員を選考委員にいた

したいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長 異議なしと認めます。

したがって、各市町村議会の議長を選考委員とすることに決定いたしました。
各市町村議会の議長さんは、隣の読書室にお集まりをいただきたいと思います。
暫時休憩いたします。

(暫時休憩)

議長 それでは、休憩前に引き続いて会議を開きます。

選考代表者から選考の結果について、ご報告をお願いします。

木村議長、どうぞ。

10番木村議員 木津川市議会の木村でございます。私の方から選考の結果をご報告申し上げます。

慎重審議の結果、南山城村議会の北猛議員を副議長に選考いたしたいと思いますのでご報告を申し上げます。

以上でございます。

議長 ありがとうございます。議長に指名することに決定しておりますので、ただいま選考代表者からの報告のとおり、副議長に北猛議員を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま、議長において指名しました北猛議員を副議長の当選人と定めることにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

議長 異議なしと認めます。

よって、ただいま指名しました北猛議員は副議長に当選されました。

ただいま、副議長に当選されました北猛議員が議場におられますので、会議規則第32条第2項の規定により当選の告知をいたします。

副議長の当選承諾とあいさつをお願いしたいと存じます。

北猛議員、どうぞ。

北議員 失礼いたします。初めて来させていただいて、副議長というような大役を仰せつかってしまいました。頑張って広域事務組合の運営が、うまく処理できますように、ひとつ議長、関係者とともに頑張っていきたいと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。

議長 日程第4 議席の指定を行います。

議席は会議規則第4条第1項の規定により、議長において指定することになっています。よって、議長において議席を指定いたします。

北猛議員の議席を13番に指定いたします。

議席番号の入った名札と差しかえいたします。しばらくお待ちください。

日程第5 相楽郡広域事務組合議会運営委員会委員の選任の件を議題といたします。

南山城村議会の手仲圓容前議長が6月11日付で議員を辞職された関係で、現在、委員が1名欠員となっております。したがって、去る11月6日の議会運営委員会において、南山城村議会選出委員につきましては、北猛議員を議会運営委員会委員に推薦することになりました。

お諮りいたします。北議員を議会運営委員会委員に選任することにしてよろしいか。

(「異議なし」の声あり)

議長 異議なしと認めます。

よって、北議員を議会運営委員会委員に選任することに決定いたしました。

日程第6 認定第1号 平成18年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定の件及び認定第2号 平成18年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定の件を一括して議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事より提案理由の説明を求めます。

木村代表理事、どうぞ。

木村代表理事 それでは、認定第1号と認定第2号を提案させていただきます。

認定第1号 平成18年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定について。

平成18年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定について、地方自治法第233条第3項の規定により、別添のとおり監査委員の意見を添付して議会の認定を求めるものでございます。

平成19年11月19日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

提案理由でございます。平成18年度一般会計決算の結果は、歳入総額は6億7,862万2,373円となり、その中で主な財源といたしましては、構成町村の分担金及び負担金で、4億9,252万6,000円であります。総額の72.5%を占めております。

また、使用料及び手数料で1億7,313万2,210円であり、25.5%を占めております。

一方、歳出総額は6億6,554万4,972円となり、中でも衛生費で3億7,432万2,025円、56.2%、公債費で2億5,700万7,752円、38.6%を占め、衛生費と公債費と合わせて歳出総額の94.8%を占めております。歳出予算額に対する執行率は、97.0%になっております。したがって、歳入歳出差引額は、1,307万7,401円となり、同額が実質収支額となっております。

続いて、認定第2号、平成18年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定の件の提案説明を申し上げます。

認定第2号 平成18年度相楽郡ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定について。

平成18年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算について、地方自治法

第233条第3項の規定により、議会の認定を求めるものでございます。

平成19年11月19日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

特別会計決算結果は、歳入総額で392万1,785円となり、その中で主な財源といたしましては、財産収入の211万5,376円で53.9%、繰入金で170万円で43.3%を占めております。また一方、歳出の総額は222万525円となり、歳出予算額に対する執行率は72.3%になります。したがって、歳入歳出差引額は、170万1,260円となり、同額が実質収支額となっております。

以上、平成18年度一般会計及び特別会計決算の概要を申し上げまして提案説明といたします。なお、詳細につきましては、事務局から説明をさせますので、どうかご審議の上、原案どおり認定をいただけますようお願いを申し上げます。

終わります。

議長 提案理由の説明が終わりましたが、補足説明を事務局からお願いいたします。

福田主幹 事務局の福田でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、認定第1号、平成18年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定につきまして、補足の説明を申し上げます。

それでは、事項別明細書により説明をいたします。5ページ、6ページをお開き願ひしたいと思います。

歳入でございますが、一番下にございます歳入合計欄にありますように、予算現額6億8,634万7,000円に対しまして、調定額、収入済額ともに6億7,862万2,373円で、予算現額に対しまして、772万4,627円、率といたしまして1.1%の減となっております。また収入済額は前年度に比へまして、3,277万75円、4.6%の減となっております。

3ページ、4ページにちょっと戻っていただきたいと思ひます。1款分担金及び負担金では、4億9,252万6,000円のうち、町村分担金では2億3,817万1,000円となり、相楽会館分担金が3,405万2,000円、し尿処理分担金が2億411万9,000円となっております。また、公債費分担金といたしまして、これは備考欄にありますように加茂町一括算入によります交付税分ですが、1億3,655万5,000円となっております。処理場更新公債費分担金としまして、1億1,780万円となっております。なお、分担金及び負担金は、歳入総額の72.5%を占めてございます。それぞれの分担金と歳出にあたりましては、概要説明の中にありますとおり、市町村別がございまして、それぞれ市町村別にあたりまして、分担金条例に基づき算出したものでございます。

2款使用料及び手数料の収入済額が1億7,313万2,210円で、前年度に比へまして1,706万3,678円、9.0%の減となっております。その主な原因としましては、清掃手数料、くみ取り手数料になりますが、1億7,236万4,100円、前年度に比へまして

1,708万888円、9%の減によるものが主な内容でございます。

3款繰越金は、前年度からの繰越金でございます、1,261万7,149円であります。

次に5ページ、6ページをお開き願いたいと思います。

4款諸収入でございます。34万7,014円であり、預金利子で6万8,708円、雑入で27万8,306円となっております。雑入の内訳につきましては、備考欄に記載したとおりでございます。

以上が歳入でございます。

続きまして、歳出についてご説明申し上げます。

恐れ入ります、11ページ、12ページの方をごらんいただきたいと思います。

一番下の歳出合計欄にもありますように、予算現額6億8634万7,000円に対しまして、支出済額は6億6,554万4,972円で、97%の執行率。不用額につきましては、2,080万2,028円となりました。

それでは恐れ入ります、若干戻っていただきます。7ページ、8ページをお願いいたします。

1款の議会費でございます。支出済額は56万3,160円で、不用額は4万8,840円となっております。支出の主な内容につきましては、議員報酬、旅費等でございます、定例会を2回、議会運営委員会3回開催をいたしております。不用額の主な内容は、議会、委員会の旅費でございます。

2款総務費では、支出済額は3,365万2,035円で不用額は66万9,965円となっております。1目の理事会費で41万8,680円、理事の報酬、旅費等でございます。理事会を計画どおり8回開催をいたしております。2目一般管理費で3,318万575円でございます、支出の主な内容は、事務局職員4人の人件費、公平委員会費、相楽会館の電気代や維持管理経費等でございます、不用額は64万2,425円で、主に印刷製本費の減、相楽会館の利用減によります会館清掃等の減によるものでございます。

次に、3款衛生費でございます。9ページでございます。衛生費では、支出済額は3億7,432万2,025円で、歳出総額の56.2%を占めております。また、不用額は806万5,975円となっております。1目清掃総務費では、支出済額が47万6,650円で、大谷処理場の災害共済保険料等となっております。

11ページ、12ページをごらんいただきたいと思います。2目のし尿処理費です。支出済額は3億7,384万5,375円あります。そのうち、委託料で3億7,302万8,375円ありまして、し尿収集運搬業務の委託料で1億5,211万4,184円、これは管内市町村のし尿くみ取り業務につき6業者に委託をしているものでございまして、1万5,225.9キロリットルの収集にかかる委託料でございます。前年度と比べまして、1,831万7,569円、10.8%の減、収集量といたしまして1,837キロリットル、2,800リットルのバキューム車で換算いたしますと、約1,020台分の減となっております。

次に、大谷処理場運転維持管理委託料で2億1,328万4,400円でございます。先ほどの代表理事のあいさつにもありましたとおり、「合特法」の代替措置として「京都南部環境事業協同組合」に委託をしたものでございます。前年度と比較をしますと、前年度の委託額が2億723万円でありましたので、2,018万2,000円、8.6%の減となっております。減となりました主な要因は、委託費の水質、大気分析業務、特殊委託費の清掃汚泥処分業務など、5つの業務を包括委託から除外をいたしまして、組合が直接委託したために、約760万円の減。その他、処理量の減によります薬品費、電力費等の減によるものが主な内容でございます。なお、不用額は767万9,625円で、その主な理由は、13節の委託料におきまして、不用額745万4,625円となっておりますが、し尿収集運搬委託料の減でありまして、3月の補正予算におきまして減額をいたしましたけれども、その搬入量予測が1万5,900キロリットルより674.1キロリットル少ない1万5,225.9キロリットルとなったためでございます。

4款公債費では、支出済額は2億2,127万8,059円となり、前年度と同額となっております。これらは、平成10年度から12年度にかけまして、大谷処理場の更新工事、改修にかかる財政融資資金の元利償還、また平成14年度に実施をいたしました水源地改修工事にかかります郵便貯金資金の元利償還でございます。なお、組合債は、元金で27億4,250万円、利子で4億7,206万1,319円、合計32億1,456万1,319円となっておりますが、平成27年度の償還完了まで、あと9年間、構成市町村の分担金をもって償還をしていただくこととなっております。なお、平成18年度末での償還済額は、約13億1,100万円で、未償還金額は約19億300万円となっております。

5款予備費でございますが、支出はございませんでした。したがって、不用額が1,201万6,000円ということになってございます。

13ページをお開き願いたいと思います。実質収支に関する調書でございます。歳入済額6億7,862万2,373円、支出、歳出総額6億6,554万4,972円、歳入歳出差引額で1,307万7,401円となりまして、翌年度への繰越財源はございませんので、このまま実質収支額も同額の1,307万7,401円となっております。

また、14ページの方には財産に関する調書ということで、土地、建物、物品ともに、平成18年度の増減はございませんでした。

以上が一般会計の決算の内容でございます。

続きまして、認定第2号につきまして、補足の説明を申し上げたいと思います。

恐れ入ります。認定第2号の3ページ、4ページお開き願いたいと思います。事項別明細書により説明をいたします。

まず歳入でございますが、一番下にございます歳入合計欄にありますように、予算現額307万円に対しまして、調定額、収入済額ともに392万1,785円で、予算現額に対しまして、85万1,785円、率として97.7%の増となっております。また、収入済額は前年度と比べ

まして45万5,741円、13.1%の増となっております。

1款財産収入では、211万5,376円となりまして、7億円の基金運用益などとなっております。なお、財産収入は、収入総額の53.9%を占めております。

2款繰入金は170万円で、前年度に比べまして36万6,000円、17.7%の減となっております。

3款繰越金は、前年度の繰越金でございまして、2万1,718円でございます。前年度に比べ、8万8,638円、80.3%の減となっております。

4款諸収入でございます。8万4,691円、預金利子等でございます。

以上が歳入でございます。

続きまして、歳出の説明を申し上げます。

5ページ、6ページをお願いいたします。

一番下の欄でございますが、歳出合計欄にもありますように、予算現額307万円に対しまして、支出済額は222万525円で、77.3%の執行率、不用額は84万9,475円となりました。

1款振興費では、支出済額は222万525円で、不用額は81万5,475円となっております。支出の主な内容は、広域圏だより「だい好き！そうらく」を全戸配布2回を配布したこと、また「相楽ふるさと塾」の事業運営費、第14回相楽の文化を創るつどい開催の事業補助金等でございます。1目振興総務費では39万7,776円、全国ふるさと市町村圏協議会費の負担金などがございます。前年度に比べまして23万9,832円、37.6%の減となっておりますが、印刷製本費等の減によるものでございます。2目事業推進費では、84万3,780円。支出の主な内容は、広域圏だより「だい好き！そうらく」を6月1日号、1月1日号と年2回発行し、全戸配布いたしました。歳出総額の38%を占めております。3目事業費では、43万9,982円。支出の内容は、「相楽ふるさと塾」の事業運営費、組合ホームページのサーバー維持管理委託料などによるものでございます。歳出総額の19.8%を占めております。前年度に比べまして44万9,893円、50.6%大幅に減となっておりますが、減となった主な要因は、事業を縮小せず充実をし、さらに経費節減を図った結果、「相楽ふるさと塾」で30万3,000円の減となり、その主な内容は広域活動計画の作成を、従来、印刷会社に外注していたのを事務局で印刷したため、また「ホームページ」につきましても、従来1社でお願いしていたんですが、3社見積りをいたしました結果、14万3,000円の減額したことが理由でございます。4目広域的事業推進費では、53万8,987円、支出の主な内容は、第14回相楽の文化を創るつどい開催の事業補助費でございます。歳出の24.3%を占めてございます。

2款予備費でございますが、支出はございませんでした。したがって、不用額は3万4,000円となっております。

7ページをお願いいたします。実質収支に関する調書でございます。歳入総額392万1,7

85円、歳出総額222万525円、歳入歳出差引額170万1,260円、翌年度より繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額も同額の170万1,260円となっております。

8ページをお願いします。平成18年度末における相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計財産に関する調書でございます。「相楽地区ふるさと市町村圏振興事業基金」は、前年度末現在高7億1,158万4,000円、決算年度中増減高170万円、決算年度末現在高、7億988万4,000円となっております。なお、平成19年10月4日に監査委員によります決算審査が行われまして、別紙のとおり監査意見をいただいております、これを十分に尊重いたしまして今後とも広域的な財政運用に努めてまいりたいと考えております。

以上で、認定第1号及び認定第2号につきましての説明を終わらせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

議長 以上で議案の提案理由の説明を終わりました。

これより決算審査の監査報告を監査委員に求めます。

木村浩三監査委員。

木村監査委員 監査委員を代表いたしまして、私の方からご報告させていただきます。

平成18年度相楽郡広域事務組合決算審査意見書を朗読をもって報告とさせていただきます。なお、議長にお許しをいただいておりますが、訂正箇所がありますので、皆様方にお読み申し上げ訂正をいたしたいと思ひます。

3ページの上から2行目のところです。公債費で36.8%となっておりますけれども、38.6%の誤りでございます。以上で、よろしくお願ひを申し上げます。

それでは、審査の内容をご報告申し上げます。

審査の対象は平成18年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算書及び平成18年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算書です。

審査の期日は、平成19年10月4日木曜日、午前9時30分から午後3時まで行いました。

審査の手續につきましては、この決算審査にあたっては、相楽郡広域事務組合代表理事から提出された各会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書について、計数に誤りはないか、財政運営は健全か、財産管理は適正か、さらに予算の執行については関係法令に従って効率的になされているかなどに主眼を置き、毎月実施しております例月出納検査を参考にし、関係帳簿及び証拠書類との照合、その他必要とされる書類等の提出を求め、関係職員から説明を受けるなどして実施をいたしました。

(テープ反転)

決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成されており、決算計数は関係帳簿及び関係書類と照合した結果、すべて適正に処理されていることが認められた。

決算規模、平成18年度一般会計及び特別会計の決算は、2ページに掲載のとおりでございます。

す。

それでは一般会計の方から申し上げます。一般会計では、大谷処理場運転維持管理業務、し尿収集運搬委託業務などを中心に、日常業務が円滑に処理されていることは評価できる。

特に、今年度の特徴として、衛生費で一般会計全体の56.2%を占める上に、平成17年度から大谷処理場水源地更新工事にかかる平成14年度一般廃棄物処理事業債借入分の元金償還が始まったことから、公債費で38.6%と大きくウエートを占めていることが上げられる。

し尿収集業務では、大谷処理場への搬入量は2万6147キロリットルで、前年度に対して1,283キロリットル、率で約5%の減量となっており、内訳といたしましてはし尿搬入量は1万5,226キロリットルで、前年度に対して1,837キロリットルの減少となり、浄化槽汚泥搬入量は1万920キロリットルで前年度に対して554キロリットルの増加となった。

また、大谷処理場運転維持管理業務については、「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」の趣旨を踏まえた措置としての代替業務として、し尿収集運搬業者等で組織する「京都南部環境事業協同組合」と委託契約をしているが、施設整備にかかる各種工事、修繕等の施工については、必要最小限の範囲で計画的に実施されており、合理的な設備機器の管理が行われており、水質等の設計基準地を十分に満たす安定的な運転処理を行なっている。

今後、組合構成市町における下水道による水洗化率の向上により、全体搬入量が年々減少することは予想されるものの、施設整備にかかる各種工事、修繕等の維持補修費が増大することも予測される中で、構成町村の衛生担当課長で構成される「し尿処理事業の今後のあり方検討会」において6回の協議がなされ、平成29年度にはし尿と浄化槽汚泥の搬入量比率が逆転して、浄化槽汚泥の搬入量が多くなる見込みであり、平成32年度には1日76キロリットルの処理能力に対して、約50%の搬入量となり、また、前処理機である破砕機など、平成10年度から使用しているために経年劣化が進み、取りかえ工事が必要となってきたものもあり、今後とも日常的な点検業務や定期的な維持修繕工事をしていくこととあわせて、水処理施設は一定の時期に施設全体の大規模な修繕、取りかえ工事は避けることができないといった報告がなされている点からも、的確な財政見通しの上に立った事業計画を樹立し、より一層の合理的かつ効率的な事業運営に配慮し、施設の安全管理などにも十分留意をされたい。

次に、相楽会館管理委託業務については、会館から31年を経て施設は老朽化が進み、しかも利用者用の駐車場もなく、さらに周辺に同様の施設が相次いで完成したこともあり、本年度の利用者は9,100人となり、平成2年度のピーク時の約45%となっている。このような状況の中で、今後の維持運営にかかる課題と方策を検討するため、構成町村の担当課長で構成する「相楽会館の今後のあり方検討会」を設置し、4回の委員会を開催し検討され、用途変更の手続等について掘り下げて検討がなされたところであるが、広域行政の観点からの利活用の方策がないかなど、最善の方策について具体的に協議を進められ、相楽会館を取り巻くさまざまな状況や広域行政の観点から慎重に審議を重ね、一定の方向性を示されることを期待する。

特別会計におきまして、相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計では、「相楽地区ふるさと市町村圏計画」の基本計画に基づき、ふるさと市町村圏振興事業基金の運用益を活用し、圏域の一体的な進行整備のための広域的ソフト事業を実施されている。

基金については金融情勢を十分に調査し、元本の維持とより多くの運用益を得ることを目標に、安全性、確実性及び有効性を総合的に判断し、(株)南都銀行で5年定期(平成15年から19年)の利率0.18%で運用されてきた。

ただし、平成18年7月のゼロ金利政策の解除による公定歩合の引き上げ、それに伴う市中金利の上昇により基金の預けがえを行い、(株)南都銀行で5年定期の利率1.25%を確保したことは評価に値する。

今後の基金事業については、預金の預けがえに伴い、基金運用益が875万円を確保できているが、引き続き金利動向を見きわめるとともに、事業展開についても「ふるさと市町村圏計画」に基づき、相楽地域の豊かな自然環境や歴史、文化の保全と活用、地域に根差した産業、観光の振興などさまざまな行政課題の中から、広域行政として積極的に対処すべき共通の課題について、今後とも創意と工夫のある事業を展開されたい。

以上のとおり、予算額と執行率は、一般会計、特別会計ともに適正に執行されており、全体的に見ても実質収支は黒字となり、財政運営は総体的に見て健全であり、適切であることが認められる。

なお、広域事務組合にあっては、一般会計の主たる財源が構成市町村の分担金であることから、財政運営等についての努力は見受けられるが、今後とも厳しい財政状況を踏まえて、将来を展望した計画的な財政運営によって地域住民の生活福祉の増進に寄与されることを望むものである。

以上でございます。

議長 以上で監査報告を終わります。

これより質疑を行います。

質疑、ございませんか。

はい、どうぞ。

14番青山議員 何点か質問させていただきたいと思います。

先ほど、ご説明をいただきました不用額につきましては、衛生費の不用額は簡単に言えば当初予算よりも監査報告にもありますように、減量の分が745万、増額になっているということで理解したいと思います。それから、予備費のところは1,200万余り、これは支出がなかったというご説明でした。その前のですね、衛生費のところの、これはこの600万は残りの70、60何ぼの、745万の不用額の全体の数だと思いましたが、説明をいただければ、その他の不用額について説明をいただきたいというふうに思います。

それから、この監査報告の中で、17年度からそれにかかわって元利償還ということで、公債費38.6%ということで大きく占めているわけですが、この公債費、先ほどの説明の中ではあ

と9年間、残り19億300万ですか、を返済する、分担金で返済するというご説明でしたが、返済のピークというのはいつごろになっているのか。今が、現状が一番のピークなのか、その辺をお聞きしたいというふうに思います。

それから3つ目には、この監査報告の中でも全体の搬入量が減っているという説明がありました。例年以上に比べて1,283キロリットル。この施設はご存じのように、生し尿の分を1日に47キロリットル、それから汚泥の分が29キロリットルということで、日に76キロリットルという処理能力の施設ということで設置されているわけですが、この18年間ですね、18年度決算は、平均、月ベースどのぐらいの、大体、月ベースで出るのか日にちで出るのかわかりませんが、この処理能力に対してどのぐらいなのかということがわかればお聞きをしたいと思います。

最後にお聞きをしたいと思うんですけども、この全体、17年度に比べて先ほどもおっしゃいましたように、3,277万ぐらい前年度に比べて緊縮予算をしていただいて、その結果、この年度途中もかなり努力をしていただいて、現在の決算に至っているという点は評価に値するかなと思うんですが、ご存じのように、当初代表理事のごあいさつの中でありましたように、それぞれの市町村の中で、広域に限らず消防組合とかあらゆるこの一部事務組合の各市町村の分担の割合なり、負担が本当に大きいっていうことは皆さんもご承知のとおりだと思うんです。それぞれ、本当に努力をしなければ、私たちの村とか、特に小さい財政のところではこれ、一部事務組合、広域に限らずこの分担の負担が全体の占める予算割合の率が大変大きいですので、そういう点では、今後もこの一部事務組合の中身を削減していただくということは大変重要だと思うんですが、18年度の決算を見るに当たって、19年度には先ほど代表理事の説明の中でも相楽会館の管理の見直しであるとか、それを各担当課でずっと検討していただいて、今後、年度前にはほぼ決定していただく等のご説明がありましたけれども、18年度の決算を19年度の予算にさらに削減する方向で検討されるという内容があれば、お聞きをしたいと思います。

以上です。

議長 事務局、答弁をお願いします。

林事務局長 事務局の林でございます。

ただいまの青山議員さんのご質問にご答弁します。

まずは不用額の関係でございますけれども、745万4,145円のうちですね、し尿関係で減った分については700万、これ90数%ですけれども、その他についてはですね、焼却灰の処分について4万3,100円、それから運搬、これ2万4,000円がその他の内容でございます。

それから公債費は福田君に説明してもらいます。

全体の搬入量の関係のご質問でございましたけれども、平成18年度の決算の概要の13ページにですね、詳しく17年、18年のし尿並びに浄化槽汚泥の月別のトータル表を掲載しており

ます。4月、12月、3月と、これが一応、当初の能力よりも100%を超えているところもありますけれども、全体としてはいけているということで、これ平成9年から13年ですか、現在の施設を4年間かけて造ったわけでございますけれども、ずっとその処理能力を上回って、いわゆる昨年までは、海洋投入処分に頼らざるをえない状況できたわけでございますけど、下水道の計画がですね、当初よりも今日の経済状況の低下も踏まえてなかなか計画どおり進まなかった、こういうことが結果として随分おくれたと。しかしながら、18年度から76キロリットルに対してですね、その以下におさまってきたというのが経緯でございます。

それからですね、17年度に比べての減少の問題についてはですね、し尿については当然減量というか減っておることについて、こちらの委託料も減っているわけでありまして。けれども、いわゆる処理量の委託についてはですね、これは人件費とか電力とかそういうのについては若干、いわゆる量が減ることによって比例するものがございますけれども、なかなかそうはいかないところがたくさんございます。私たちは、一応、17年、18年にかけては、薬品の、全体の薬品がですね八千数百万ぐらいかかっていたわけでございますけれども、最近、こういった類似施設が民間委託あるいは、包括的発注といった形での施設管理がふえているわけでございますけれども、いろいろと研究しましてですね、いわゆる重油とか電力とかこんなんはあまり変化はないんですけれども、薬品についてはやはり納入の仕方、入札するとかですね、いろんな形でのいわゆる研究をしたからですね、結果的には1,000万程度ですね、削減が図られるということでございます。これが一番大きな要因でございます。

それから、負担割合の件につきましては、これは私の方の立場からちょっと言いづらいというか、十分説明、後の分担金の話にもかかわってくるわけなんでありますけれども、青山議員さんが言われましたように、いわゆる40数年来お互いにいろいろ協力し合いながら、共同してやってきたわけでありまして、今日の大きな時代変化の中でやはりそういう事業をお互いやっていける内容を、十分、財政課長さん含めて理事者と何回も何回も議論しながら、こういうふうになってきているということだけ報告させていただきます。

ちょっと公債費について、福田の方から。

福田主幹 青山議員さんのご質問でございますけれども、公債費のピークというお話でございます。既に、事前に配付をさせていただきました平成18年度決算概要説明、お持ちでしたらごらんいただきたいんですが、この15ページのところに起債返還の年次表ということで記載してございます。ちょっときょうは配付をしておりませんので、もしお持ちの方いらっしゃいましたら、事前に配布の決算概要説明の15ページの方にありまして、平成9年から12年の4カ年の大谷処理場更新工事にかかります残金及び利子が、平成10年度から発生をしております。また、先ほど申しましたように、水源地分としまして、平成14年に施工しました利子分が平成15年から、また元金の方は平成17年度から発生をしております、この合計欄、一番右端のところのですね、平成10年から順番に元金、利子、計というのがありますが、この計の3段目を

ずっと見ていただきますと、平成17年度2億5,700万7,752円となっておりまして、この同じ額がずっと平成24年まで、ですから8年間、この平成17から平成24年までがピークとなっておりまして、今、まさに起債償還のピークを迎えているということですので、ご理解いただきたいと思っております。なお、返済の方法につきましては、先ほど申したとおりでございます。

あと、各それぞれの不用額の関係でございますけれども、いいですか、失礼します。

議長　ほかにございませんか。どうぞ。

木村代表理事　分担金等につきましては、我々1年半ほどかけて議論をしてきたところでございます。当然1つの町が6万7,000人を超える町があり、あるいは2,000人を切る町があり、こういった広域事業をスタートするときには、それ程大きな人口差はあったことには違いありませんけれども、それもなかった時代ですけれども、こういう時代を迎えることによって、それぞれ地方財政もいろんな面で影響してきているということの中で、ぜひともこの際、みんなで見直しということで努めていきたいところでございます。今、おっしゃられるように、人口減の激しいところにも人口がふえる地域の方々のやっぱりいろんな配慮がそこで起きてくることも、当然の時代だということで、そういうことも含めて、今後の広域行政のあり方を議論をし、後ほどお願いいたします内容にもそういう方向を出していただきたいということでございます。当然、これからもですね、そういう面に十分配慮しつつ広域行政を進めていきたいというふうに思っています。

終わります。

議長　ほかに。

酒井議員。

3番酒井議員　初めです。先輩議員には何かと思われることなのかもしれませんが、3点質問します。8ページです。失礼、一般会計関係の資料です。その8ページの中に議長交際費、それから代表理事交際費という項目があります。金額的には大きな額ではないんですが、執行額が随分と差があるんだなということで、これはどういう、どんなもんなかという疑問がありますので、代表理事の交際費何円、議長の交際費がいくらということが、ありましたら。

続けて10ページです。10ページの下の方ですが、清掃総務費の中で保険料とおっしゃった点で、下から2段目ですが、執行47万6,000円、不用額が38万円とあります。実に約半分ほどの不用になっているんですが、これについては、予算の立て方が、まあ言うたら一般的に見通しが甘かったのか、それとも何か特別な事情があったものなのか、それも1つお聞きします。

それから3つ目ですが、12ページに、10ページ。衛生費の大きな項で、清掃総務費の部分なんですけれども、ここです。例えば公債費にもかかわってくる水源地の改築が、改築工事が行われたと。それで、水については加茂町から引いているという話だと思うんですけれども、例えばその経費等、細かいことを言いますけれども、経費等はこの表の中に出てこないと思う

ので、水の使用料なり地区に対する謝礼なり、いかほどのものなのか、その数字を教えてください。

議長 事務局、どうぞ。

林事務局長 酒井議員さんのご質問にお答えします。

まず、議長、代表理事の交際費の関係でございます。これは広域に関係いたします理事会または議員さん、それぞれにご不幸がございました場合にしきびを5,000円ずつですけれども出させていただきます。その関係の分と、こういうことでございます。

それからですね、昨年度では、西上議長さんのお母さん、それから。

木村代表理事 名前はええわ。

林事務局長 金額が5,000円でございます。

それからですね、水源地の管理の問題でございます。これについては電気代は当然かかりますけれども、地区への謝礼、こういうものはございません。また水道代ということでありまして、これは地下を吸い上げていますので、この水道代はございません。

以上です。

福田主幹 酒井議員さんのご質問の中で10ページでございますけれども、衛生費の清掃総務費の不用額が38万6,350円、大きく不用額が出ておりますですけれども、この関係のご質問だと思います。執行の方は先ほど申しましたように、大谷処理場の保険ということを行いました。その38万6,350円の主な内容につきましては、11節需用費で36万970円ということとなっております。それは、くみ取り券印刷を36万円計上したわけですが、今年度は印刷をしなかった。これは、やはり会計の年度もありますし、またくみ取り量の減を見まして、まだ刷らなくても残があったということ、いろいろとタイミングを見計らって執行を考えていたわけですけれども、結果的に18年度中予算では計上させていただきましたが、執行、し尿くみ取り券の印刷を執行しなかったためということでございますので、ご理解をいただきたいと思えます。

議長 はい、どうぞ。酒井議員。

3番酒井議員 あの、今の説明で大体わかりましたが、交際費に関してだけは今後資料として何件、数字ぐらいは出していただきたいと思えます。地元、代表理事が多いのは当然だと思うんですけど、交際費の関係上。議長との差がちょっとこんなにあるのかなと思ったということです。

以上です。

議長 北議員、どうぞ。

13番北議員 13番北でございますけれども、ちょっとようわからへんのんですけども、まずちょっとだけ感じたことで、特別会計歳入歳出決算認定ということで8ページ、7億円の基金がありますね。この一般会計の歳入歳出の中で11ページでございますが、公債費として2億

3,573万円の利子を払っている。この中で先ほどの監査報告の中で4ページですが、5年定期の0.18%とあるんですけども、これは7億もお金を持っているという話ですが、高いお金を借りて安い金利をいただいているということでこれで満足しておられるのかということをお私は何回も言っておるんですけども、1.25%がいいとか悪いとか言いませんけれども、これももし仮に南都銀行さんに預けているのであれば、恐らく、確か1,000万円、もし仮にですよ、仮におつぶれになったら。確か1,000万しか返していただけないというような中で、それじゃ、私がやっている団体の中では、これは一応、国債というものに手をつけている。国債になったら1.8から2点何ぼですね。ほなら、かなりそれの方が有利じゃないかな、やっぱりお金を預けるのであれば高い金利のうちの基金残高ようけあるのに、これ安い金利をいただいて預けている。それでは、ちょっと変だと思うんですけど、できたらお考えなどを管理者の方でお聞かせ願えたら。

議長 事務局、どうぞ。

林事務局長 北議員さんのご質問にご答弁します。

基本的にですが、このふるさと市町村圏の7億についての話と、公債費、借金さっきの話は、ちょっと別の話になります。これは平成4年には、ふるさと市町村圏、総務省が広域的課題を解決しようということで、その当時政府がいろんなですね、市町村で6億3,000万、京都府が7,000万で、計7億ほどですね、基金を、いわゆる積み立てされております。積み立てているんな当時だったら1.2%、1.3%、年間に1,200万ほどの金利もついた時代がございましたけれども、その金利を活用しているんなソフト事業をしたらどうですかと、こういうふうな事業の計画でございます。

13番北議員 それはわかるとるねん。

林事務局長 はい、ああそうですか。それで、そのことについては本日まで非常に普通金利が非常に減少してきまして、年間112万ですか、程度の金利しかない時代が続いていたわけがありますけれども、昨年、いわゆる金利が若干上がりましてね、これで活用していこうということで、今回、北議員のおっしゃりましたけれども、非常に四、五年前は金融機関の問題がございましたけれども、今日的には大丈夫であるということで、理事会とも何回も相談して、財政課長とも何回も協議しながらですね、それやったら定期にしていこうということになったところでございます。以上です。

議長 北議員、どうぞ。

13番北議員 私の聞きたいのは、7億というその基金では実際取り崩ししていない、どういう種類のもんですかというのをちょっとお聞きしたかったのと、しかしこの中でですね、普通運用ということで幾らかされていますね。1,000万ですね。それに対しては国が潰れん限り、国債というのはええと思うんやけど、一応、そうなさったらどうですかということで、だから私、事務局に聞いているのではなしに、代表理事にお聞きしておるんです。

議長 代表理事どうぞ。

木村代表理事 先ほど、事務局から説明をしましたがけれども、当然原資を置くということには一定の制約がありますので、もちろん、それは、広域事業以前にですね、ふるさと創生でそれぞれ全国市町村に1億円ずつですね、お金が出たときがありますね。そういうときにですね、それぞれ広域圏でも広域事業を進める上において、単独の町でいろいろするよりも広域行政の中でやった方がより効果的だというようなことも含めて、ソフト事業も含めてやれるならそういう基金の積み立てて、ソフト事業を中心にということで今日まできているわけです。それで、「相楽ふるさと塾」もまさにそういうことなんですけれども。

13番北議員 それから事業に使えるお金と、ようするに取り崩せないということと、やはりどこかの事業に使われてね。それで国債を買われたら1.8から2つきますよということでお考えなさったらどうですかというのを、私は話しているんです。

木村代表理事 提案を否定するものではありませんけれども。今回これにつきましては、いろいろ金融機関とも、おたくの銀行はどれだけ金利があるというようなこともやりながら、調整やりながら、そして高いところに預けかえましたということで。当然、満期が来るまでに金利の高いところがあれば、解約した、預けがえをしたということもありますんで、その差益だけでこれだけのお金が、利子が出たということです。

議長 ほかに。はい、どうぞ。

松尾収入役 収入役の松尾でございます。ただいまの運用の件でございますが、今、代表理事の方からの説明に補足させていただきたい。まず、議員ご質問の国債の件でございますが、この国債購入につきましては、国債をですね、こういったときには、長期間、そのまま、とめ置きされます。

13番北議員 されません。

松尾収入役 この部分については、運用益でございますので、毎年総預金の金利で運営をしているという性格をっておりますので。

13番北議員 毎年入ってきます、国債も運用益が。

松尾収入役 ということで。

13番北議員 国債のこと知らんの。

議長 ちょっと北議員、先こっこの、収入役の方の答弁を聞いてから、まとめておっしゃってください。

13番北議員 はい。

松尾収入役 そういう観点から、一応、基金の運用というのを考えておりまして、これは従前からの今日まで本会計につきましては、そういうふうな運用をとってきたという経過もございますので、昨年度においてもそういう経過で利息の、特に金利が、ゼロ金利から後ですね、それぞれ金融機関の方において利率がそれぞれ引き上げされるということでございますので、競争し

ていただいた上で預金をしていこうとこういうことで進めております。

以上です。

議長 北議員どうぞ。

13番北議員 よろしいわ。ただし私の言いたいのはね、国債といえども1年国債もあれば10年国債もあるよと、3年であろうと5年であろうと、元金は保証されます。それと、毎年必ず入ってきます。何年に一遍というあれはありません。ちょっと勉強なさってください。

議長 事務局長、答弁願います。

林事務局長 北議員さんの提案的なご意見をいただいたところです。あのですね、これふるさと市町村圏、平成11年度にはですね、180件ですね、それが現在142ということで2割ほど減ったということですけども、いわゆるその市町村合併によって圏域そのものが1つの市になったということで、その場合はいわゆる問題がないんですね。ところが、いろいろ合併のパターンがございまして、圏域がそのまま残ってるですね、場合においてはその基金については、いわゆるその取り崩しをしない、そういうことはできないということが基本的なことです。ただし、我々いろいろ調査をしていましたら、いわゆる例えば大分、焼却場造りましょうとか、あるいはし尿処理施設を改修しましょうとか、こういう同じ圏域で共同の利益については幾つかの例がありますよというふうなことは聞いております。ただしそれも、我々財政担当なり理事者の方がですね、当面この圏域でやっていこうとこういうことでございます。したがって、将来的にはまた話、ご提案がございましてけれども、それは、私は、多分活用の用途が、多分可能ではないかなとこのように思っています。

以上です。

議長 よろしいか。

ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

議長 これで質疑を終わります。

これより討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長 討論なしと認めます。

これより採決を行います。

採決は1件ごとに行います。

まず、認定第1号 平成18年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定の件を採決いたします。

採決は挙手によって行います。

原案のとおり認定することに賛成の方は挙手を願います。

(全員挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手全員であります。

よって、認定第 1 号 平成 1 8 年度相楽郡広域事務組合一般会計歳入歳出決算認定の件は原案のとおり認定されました。

次に、認定第 2 号 平成 1 8 年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定の件の採決を行います。

この採決は挙手によって行います。

原案のとおり認定することに賛成の方は挙手を願います。

(全員挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手全員であります。

よって、認定第 2 号 平成 1 8 年度相楽地区ふるさと市町村圏振興事業特別会計歳入歳出決算認定の件は、原案のとおり認定されました。

日程第 7 議案第 1 3 号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正についての条例の件を議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事の提案理由の説明を求めます。

木村代表理事、どうぞ。

木村代表理事 それでは、1 3 号議案を提案させていただきます。

議案第 1 3 号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例について。

職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例を、別添のとおり定めます。

平成 1 9 年 1 1 月 1 9 日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

提案理由でございます。国家公務員においては、平成 1 8 年 7 月 1 日以降、休憩時間が改正され、休憩時間が廃止されたところであり、当組合におきましても、国家公務員に準じて休憩時間を改正し、休憩時間を廃止するため改正するものであります。

なお、本条例の施行日は、平成 2 0 年 4 月 1 日とします。

ご審議の上、原案のとおり可決賜りますようお願い申し上げます。

終わります。

議長 議案の提案理由の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

質疑はありませんか。

酒井議員どうぞ。

3 番酒井議員 3 番の酒井です。2 点。

1 点は、相楽の現在の 5 市町村、勤務協定の変更状況はどうなっているのか。実際は、このよ

うな内容で変更が行われたところと行われていないところと現実にあると思いますので、その実情を質問します。

2つ目は、この人勤の内容そのものは、民間準拠ということが精神になっています。一方、民間準拠している民間ですが、いわゆる退所時刻といいますが、企業とよべるいわゆる勤務の終了時刻は、私は5時半ではないと思うんですが、実情はどうなんでしょうか、その2点です。

議長 はい、事務局長、答弁願います。

林事務局長 酒井議員さんのご質問に答弁させていただきます。

まず第1点目の郡内の現状でございますけれども、私が現時点で把握をしておりますのは、市町村関係については、精華町さんだけがまだ実施されていません。それ以外については全部実施されています。一部事務組合については、中部消防、それから病院については実施されている。それ以外の団体については、今後、我々もそうですけれども、今回の議題に提案させていただいたというふうに把握しています。

それから人勤の話でございますけれども、基本的に非常に今日の公務員が置かれている状況というのは非常に厳しいというんですか、いわゆる国民世論が厳しい声がございまして。率直に言います。従前、いわゆる休憩、休息というような定義でいわゆるご承知のように休憩はいわゆる給与がないというのでございます。休息については、いわゆる給与がつくということでございます。したがって、民間でしたらですね、1時間働いて、いわゆる公務員は事務の職場ですけれども、常駐しなければなりませんので、基本としては各職員ごとに順番に、15分いわゆる休憩をとるというような形できたわけなんです。それが今日的には民間準拠とかこれはいろいろと問題が多いということで、多くの場合12時00分から12時15分まで15分間、休憩時間をとっていました。

3番酒井議員 もう少し説明をお願いします。

林事務局長 そうということで、今回5時半までになったということでございます。

なお、広域事務組合としましては、現行どおりですね、切りかえるという声もあったんですけども、市町村関係で5時半まで残っている関係で、我々が5時15分に帰るわけにいかないということで、今回の内容で改正するということです。

以上でございます。

3番酒井議員 質問に答えてもらっていません、質問に答えてください。

議長 暫時休憩します。

(暫時休憩)

議長 それでは再開いたします。

局長、答弁願います。

林事務局長 酒井議員さんのご質問にお答えします。

先ほどの答弁ができませんで、申しわけありません。

民間は5時半に帰っておるかというご質問でございまして、これはいろいろ民間企業によってそれぞれ実態は違うと思います。ただ我々は、国家公務員並びに地方公務員の労働時間の問題です。

(テープ交換)

勤務時間は、自動的に8時間になりますので、就業が5時半になります。こういうことでございます。

議長 酒井議員、どうぞ。

3番酒井議員 再度すみません。

今、ご答弁では民間はさまざまで違うとおっしゃったんですが、私はそうではないと思います。民間事業の実態は当然さまざまなのは当たり前だと思います。しかも最近はややこしい派遣とか、派遣じゃないわ請負とかいろいろありますから、それはわかるんですが、民間においても拘束時刻はいつまでかというのははっきりしているはずなんです。だからわからない、違うということはないと思います。それだけ言わせてください。

議長 ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

議長 これで質疑を終わります。

討論を省略してお諮りすることにご異議ございませんか。

3番酒井議員 討論あります。

議長 討論を行います。

まず、原案に反対の発言を許します。

酒井議員、どうぞ。

3番酒井議員 この議案13号に反対の立場から討論を行いますが、実は今も申されたように、職員、公務員の勤務時刻については、民間も含めてあまり実態が周知されていないという中で協議になっておる議案になっているということをまず指摘しておきたいと思います。

木津川市におきましては、この件が人勧のどう具体化しているかということについては、合併直前の時期ということもありまして、合併3町によって随分と対応が違いました。3つのうち、中には全職員に相談、その理事者からの提案を周知、それから論議する間なく即決という形で変更されたり、それからある自治体では、態度表明のないままに合併になって実情が決まっていたと、提案どおり決まっていたというそういう経過もあります。提案の方向は、変更の方向は今提案されている内容です。休息をなしにして5時半まで勤務というそういう取り組みでした。

それから、先ほど質疑をしました郡内の5市町村によって実態状態はどうか。確かに精華町はしていない、変更されていません。5時15分が勤務時間です。職員の。それからもう1点、名前を上げますが、南山城村においても規則は変更されたようですけども、職員の勤務条例については変更されていません。5時15分のみです。そういう違いがあるということ、まず指

摘しておきたいと思います。

それで、先ほども発言の中でありましたが、答弁の中でありましたが、公務員バッシングが非常に強いわけです。そういうときに、公務員職を守るという姿勢を、やはり行政理事者は持つべきじゃないかということをもつと思います。先ほど申しました精華町にしても、南山城村の実態、私は正確にわかりませんが、やはり変更がされたとか、されていないとかいうことにつきましても、やはり職員団体並びに理事者のそれぞれの思いが反映されて、変更されたところと変更されないところが実際あるという、そういうことじゃないかと思います。先ほど申しましたが、民間のいわゆる会社員の拘束時刻は、勤務時間が7時間30分といわゆる休憩休息の関係があるんですが、8時半始まりで5時15分です。先ほど答弁出ませんでしたけれども、それが基本です。で、しかも国の人勤は目まぐるしい、やはり揺れを起こしております。来年度、20年度の人勤では公務員においても民間準拠に戻すという、昨年からの趣旨にのっとり、民間の5時15分に拘束時刻に戻すべきだということも聞いています。だから、当組合におきましても、職員の勤務時刻については、もし5時半に今変更したとして、また来年20年度で5時15分に戻すとかいう話が起り得るわけです。そういうことが予想されて、相楽管内の実態も差がある実情から、現状とめ置くのが上策ではないかというそういう意見を持ちまして、反対したいと思います。

議長 原案に賛成の発言を許します。

なければ討論を終わります。

これより採決を行います。

議案第13号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正にする条例の件を採決します。

この採決は挙手によって行います。

原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

(多数挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手多数であります。

よって、議案第13号 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の件は、原案のとおり可決されました。

日程第8 議案第14号 相楽郡広域事務組合議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の件及び議案第15号 相楽郡広域事務組合特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正する条例の件を一括して議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事より提案理由の説明を求めます。

木村代表理事、どうぞ。

木村代表理事 それでは、議案第14号と15号、関連しておりますので一括して提案をさ

させていただきます。

議案第14号 相楽郡広域事務組合議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例について。

相楽郡広域事務組合議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例を別添のとおり定めるものでございます。

平成19年11月19日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

続いて、議案第15号 相楽郡広域事務組合特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について。

相楽郡広域事務組合特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を、別添のとおり定めず。

提案理由でございます。地方自治法が改正され、収入役制度が廃止になり、相楽郡広域事務組合規約の変更に伴いまして、会計管理者が設置されたことによりまして提案するものでございます。

議案第14号では、第2条中「収入役」を削るものであります。

また、附則第1項としまして、この条例は公布の日から施行する。附則第2項としましては、この条例の施行の際、現に組合の収入役の職にある者は、その任期中に限り、なお従前の例により在職するものとするというものでございます。

続きまして、議案第15号では、第3条第3項中「収入役」を削り、別表中の「収入役年額3万6,000円」を削除するものであります。

附則第1項としまして、この条例は公布の日から施行する。附則第2項としましては、この条例の施行の際、現に組合の収入役の職にある者は、その任期中に限り、なお従前の例により在職するものとするということでございます。

ご審議の上、原案のとおり可決賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

議長 提案理由の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

(「なし」の声あり)

議長 これより質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」の声あり)

議長 討論を終わります。

これより採決を行います。

採決は1件ごとに行います。

まず、議案第14号 相楽郡広域事務組合議会議員その他非常勤職員の公務災害補償等に関する

る条例の一部を改正する条例の件を採決いたします。

採決は挙手によって行います。

原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

(全員挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手全員であります。

よって、議案第14号 相楽郡広域事務組合議会の議員その他の非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例の件は、原案のとおり可決されました。

次に、議案第15号 相楽郡広域事務組合特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の件を採決いたします。

採決は挙手によって行います。

原案のとおり決することに賛成の方は、挙手を願います。

(全員挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手全員であります。

よって、議案第15号 相楽郡広域事務組合特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の件は、原案のとおり可決されました。

日程第9 議案第16号 相楽郡広域事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の件を議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事により提案理由の説明を求めます。

木村代表理事、どうぞ。

木村代表理事 それでは、議案第16号を提案させていただきます。

議案第16号 相楽郡広域事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について。

相楽郡広域事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を、別添のとおり定めるものであります。

平成19年11月19日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

提案理由でございます。当組合の給与に関しましては、国家公務員の一般職の給与に関する法律に基づき条例を定めており、国においては人事院勧告に対し指定職職員以外の職員については、勧告どおり改定を行うものとされています。当組合でも、人事院勧告に準拠して給与改定を行っており、今回も人事院勧告に基づいて改定するため提案するものでございます。

改正条例第1条では、第8条第3項の扶養手当については、現行の「6,000円」から「6,500円」、第18条第2項の勤勉手当については、現行の「100分の72.5」から12月に支給する勤勉手当は0.05引き上げ、「100分の77.5」とするものであり、給料表

につきましては、若年部分の一部を改正するものであります。

なお、この内容は、平成19年4月1日に遡及して適用するものでございます。

改正条例第2条では、第18条第2項中「100分の77.5」を「100分の75」に改正するものであります。

なお、この内容は、平成20年4月1日施行するものでございます。

よろしくご審議の上、原案のとおり可決賜りますようお願い申し上げます。

終わります。

議長 提案理由の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

(「なし」の声あり)

議長 質疑終わります。

討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

議長 討論を省略して採決を行います。

議案第16号 相楽郡広域事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の件を採決します。

採決は挙手によって行います。

原案のとおり決することに賛成の方は挙手を願います。

(多数挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手多数であります。

よって、議案第16号 相楽郡広域事務組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の件は、原案のとおり可決されました。

日程第10 議案第17号 相楽郡広域事務組合分担金条例の一部を改正する条例の件を議題といたします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事により提案理由の説明を求めます。

木村代表理事、どうぞ。

木村代表理事 それでは、議案第17号を提案させていただきます。

議案第17号、相楽郡広域事務組合分担金条例の一部を改正する条例について。

相楽郡広域事務組合分担金条例の一部を改正する条例を、別添のとおり定めます。

平成19年11月19日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

提案理由でございます。改正内容につきましては、受益に応じた負担を行うということを大前提としており、経費を固定的経費、運営的経費に分類し、共通経費につきましては、現在の各事務の処理に要する割合をもって按分し、負担していただくよう改正するものであります。

なお、この条例は、平成20年度分の分担金から適用するとするものでございます。

なお、事務局より補足説明をさせますので、よろしくご審議をいただき、原案のとおり可決を賜りますようお願い申し上げます。

議長 事務局、説明願います。

福田主幹 事務局より補足の説明を申し上げます。

本条例の改正の理由といたしましては、先ほど代表理事が申したとおりでございますが、まずその背景には、本年3月12日、「木津川市」の誕生によりまして組合の組織団体に変更があったことでございます。さらには、今後とも構成5市町村で大谷処理場また相楽会館を運営していかなければいけないこと、また相楽会館の施設におきましても、根本的な見直しがある時期だということが背景でございます。

次に、相楽郡広域事務組合は昭和56年に当時の衛生管理組合と町村事務組合、そして広域圏協議会が事務の合理化から整理統合し、複合的一部事務組合として現在までし尿処理、会館管理、地域づくりなど住民福祉に寄与してまいったところございまして、これらの共同処理事務をするために、構成市町村から分担金をちょうだいしてやっているわけでございます。

しかしながら、これまでの各市町村の分担割合が組合業務による市町村の受益に応じたものとは完全になっていないことから、より受益に近い形での分担割合とするものであります。

その際、完璧な分担割合を算定するのが本来ではあるものの、複合的一部事務組合という共同で業務を処理している性質などからは、細部に及ぶ部分では相互扶助的な性質を有する考えもあることから、分担金算定の事務的作業の簡素化からも、客観的に判断できる範囲での受益に応じた分担割合をしたところであります。

さて、「受益」の考え方でございますが、広域圏事業では、各市町村が対等な立場で行う各種の業務実施を通じた各市町村へのまちづくりの波及であり、基本的には「構成団体数」とであると考えております。相楽会館業務につきましては、直接的な「受益」は相楽会館の利用であります。しかしながら、厳密に各市町村ごとの利用者数の把握や算定は難しい面がございますので、「人口」を使用割合とするのが妥当だと判断してございます。

最後にし尿処理業務における直接的な「受益」は、し尿の処理であります。しかしながら、業務を処理する大きな前提といたしまして、大谷処理場の施設の設置がありまして、平成13年度に全面更新をしたときの市町村割合も極めて大きな直接的「受益」と判断をするものであります。

したがって、今回の改正は、1点目には組合の運営にかかる経費の分担割合は、「受益」に応じた負担をしていただく。2点目は、処理業務の複合化に伴う共通経費は、現時点での各事務の処理に要する割合をもって各事業、広域圏、相楽会館、し尿処理に按分をすること。この2つが今回の大きなポイントとなっております。

また、各市町村とも財政状況が厳しい中、組合に対する分担金総額が大幅に変動、特に増額することは理解ができないところもあるため、一定期間の経過措置を設けるなど、構成市町村への

影響を極力抑制するための措置も講じたところでございます。

それでは、改正条例の内容をご説明申し上げます。

お手元の資料の3枚目、新旧対照表をもって説明をさせていただきたいと思っております。

今回、第2条を全文改正することとなっております。第2条第1号は、広域圏業務に要する経費であります。現行では市町村割10%、人口割が90%となっているものを改正後では固定的経費、市町村割100%、運営的経費、人口割100%とするものです。広域圏業務は具体的にはふるさと市町村圏計画の策定業務、政策のための市町村間の連絡調整にかかる業務、相楽ふるさと塾の運営を初めとする、「ふるさと市町村圏振興事業」にかかる、我々職員の人件費などがございます。

第2号は、相楽会館の管理運営業務に要する経費であります。現行では市町村割10%、人口割が90%でございます。平成19年度予算額では、約3,300万円ございまして、歳出項目で申しますと、議会費、理事会費、事務局4人の人件費や相楽会館の維持管理費などを含みます一般管理費、公平委員会費、監査委員費といわゆる組合を運営するための共通経費一切がこの相楽会館で計上してきたところでございます。改正後は、相楽会館の管理業務にかかる経費を先ほどの広域圏と同じように改正するものでございます。

次に第3号では、し尿処理業務でございます。し尿処理業務のうち、公債費を除く部分ですが、現行では市町村割が10%、市町村搬入量実績割が90%でありまして、改正後は大谷処理場に要する経費を性質別に固定的経費と運営的経費に分類をいたしまして、さらに今後、起こり得る大規模改修工事費とに分けるものであります。これは実際にし尿を処理する運営的な経費と、施設の維持管理にかかるもの、さらには「責任負担の考え方」に基づくものを広域的な観点や中長期的な視野、視点を取り入れまして改定した内容でございます。特に固定的経費では、平成13年度搬入予定量割、これは計画処理量割ですが50%、平成13年度からの搬入量実績による割合50%とするものです。例えば、平成20年度、来年度の予算では、13年度から20年度までの8年間のトータルの搬入量の実績を基礎とすることになります。

なお、現時点での固定的経費とは、施設の維持管理にかかるもので、施設の経常的な維持補修費、施設管理費や組合共通費の約66%でなどの経費でございます。

運営的経費では、搬入量実績割100%といたしまして、前年度の1月1日から当該年度の12月31日までの間に大谷処理場へ搬入された市町村別のし尿及び浄化槽汚泥の搬入量とするものであります。

運営的経費については、施設の運転管理にかかるもので、処理場職員の人件費、薬品費、光熱水費や焼却灰の運搬、処分などの経費でございます。また今後とも施設を維持管理する上での各機器の耐用年数から判断いたしましても、大規模修繕は避けられない部分があることから、大規模改修経費につきましてもその費用分担割を決めており、平成13年度からの搬入量実績による割合を100%とするものであります。

現時点で考えております固定的経費、運営的経費の割合は、それぞれ35%、65%と考えております。

次に、第4項では、大谷処理場の公債費に要する経費についてであります。現行では当該年度の元利償還金の総額から交付税算入の額を差し引いた残りを、市町村割10%、平成13年度町村搬入量実績割90%としており、改正後では交付税一括算入を廃止いたし、各市町村への直接算入とすることにより、当該年度の元利償還金の額を市町村割10%、平成13年度の町村搬入量実績割90%として、さらに木津川市の市町村割を7分の3、その他市町村はおのこの7分の1の割合とするというものでございます。

恐れ入りますが、1枚戻っていただきまして、附則となっておりますが、附則の第1項では施行期日をうたっております、この条例は公布の日から施行し、平成20年度分の分担金から適用する。第2項といたしまして、平成20年度から平成23年度までの分担金の額の特例ということで、経過措置を設けております。今回の改正で急激な増減を避けるための調整を行うものになっております。

恐れ入りますが、本日お手元にお配りしましたA3の資料集の8ページをごらんいただきたいと思っております。

このA3の8ページのところに「相楽郡広域事務組合分担金シミュレーション」についてということで載せさせていただいております。また9ページの方にはこのシミュレーションの考え方に基づいてシミュレーションをした内容を書かさせていただいたものが9ページにあります。その資料を簡単に説明をさせていただきたいと思っております。

まず、8ページの方では、今回の分担金シミュレーションは次の条件で行うということになってございます。1番といたしまして、分担金額の算出について。まず歳出項目を広域圏、相楽会館、し尿処理、公債費というふうに4つに分類をします。さらにそれぞれの歳出を、先ほど申しました固定的経費また運営的経費というふうに分類をいたします。したがって、算出の分類は からの8通りの分類をする形になります。

また、固定的経費のうち、広域事務組合であります共通経費、ここに書いています経費については、現在の各事務に要する割合、先ほど代表理事も申しました割合において算出をしております。

したがって、それをすることによって、広域圏・相楽会館分担金の総額が減少し、さらには大谷処理場にかかりますし尿処理分担金の総額が増加するということになります。

またシミュレーションを作成するに当たりましては、事務組合の行財政改革というのをまず念頭に置いておりますので、総額を1%減額をして算出をしております。また、23年度、29年度には大谷処理場の関係で大規模修繕が必要というふうに考えておまして、23年度に大規模修繕として2億円、29年度には5億5,950万円を計上し、それぞれ計算をしたものであります。

また2番目には負担割合の算出に用いる数値、それぞれ決定条件を明記させていただいております。

また3番目には歳入の充当ということで、歳出項目からそれぞれ歳入項目を差し引いた残りを市町村分担金という形で計算をさせていただいております。より詳しく計算するために、歳入区分につきましては、固定的経費、運営的経費の歳出額の割合に乗じて控除するというふうに、かなり細かく計算をしたところでございます。

以上のような考え方をもち、9ページのシミュレーションを見ていただきたいと思います。

ここで平成20年度から24年度の5年間、さらには29年度のシミュレーションをさせていただきます。この9ページの表は、小計という表になっておりまして、その前につけてはおりませんが、広域圏、相楽会館、し尿処理というそれぞれの積み上げがでございます。それを小計したものがこの9ページの資料でございます。

特徴的な市町村を例に挙げまして、説明をさせていただきたいと思います。

まず、平成20年度の笠置町の分担金を例にとって説明させていただきます。笠置町の平成20年度現行欄1,700万4,000円でございます。改正後の分が1,618万3,000円となります。増減額の方が、マイナスの82万1,000円、新しく条例改正後は82万1,000円の減となるところであります。しかしながら、附則の方にあります経過措置、4年間の激変緩和措置を講じますので、改正後から現行を考慮した82万1,000円の80%を乗じた額が66万5,000円になります。これがマイナスになりますので、一応、加算をした形で現改正後額に65万7,000円を加算をして、1,684万円というふうに計算をするものであります。

次に精華町を例にさせていただきますが、精華町では現行では4,136万1,000円、改正後の条例では4,550万9,000円となります。増減額が414万8,000円の増となりまして、そのうちの80%が331万9,000円となります。ですから、一気に条例を経過措置なくしますと精華町は4,100万というところを4,500万で414万8,000円がいきなり上がるところでございますが、緩和措置を設けてその80%の331万9,000円だけを控除して求めるものという形に。ですから、改正後から331万9,000円を控除して経過措置後の金額をしていますという形になっております。こういう形で20年度から23、24年度まで5カ年見ていただきたいと思います。

またさらには、29年度、大規模修繕がある29年度の増減額のところを見ていただきますと、精華町が4,082万5,000円という大きな増額になる。一方、木津川市、笠置町、和束町、南山城村にあっては、それぞれ改正後の額のところ減額というふうなシミュレーションになるところでございます。

シミュレーションの説明は以上でございますが、先ほどから代表から提案説明がありましたように、今回、大きな改正を、分担金を改正するものであります。

よろしくご検討を、よろしくお願ひいたします。

議長 以上で、議案の提案理由の説明を終わりました。

議案提案理由の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

(「なし」の声あり)

議長 なければ質疑を終わります。

これより討論を行います。

原案に反対の発言を許します。

坪井議員。

11番坪井議員 失礼、言うところ間違えました。

(「なし」の声あり)

議長 討論を省略して採決を行います。

議案第17号 相楽郡広域事務組合分担金条例の一部を改正する条例の件を採決します。

この採決は挙手によって行います。

原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

(多数挙手)

議長 挙手多数であります。

よって、議案第17号 相楽郡広域事務組合分担金条例の一部を改正する条例の件は、原案のとおり可決されました。

日程第11 議案第18号 相楽郡広域事務組合廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の件を議題とします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事より提案理由を求めます。

木村代表理事。

木村代表理事 それでは、議案第18号を提案させていただきます。

議案第18号、相楽郡広域事務組合廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例について。

相楽郡広域事務組合廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例を、別添のとおり定めます。

平成19年11月19日提出。

相楽郡広域事務組合代表理事

提案理由でございます。し尿くみ取り手数料につきましては、平成13年4月1日から10リットル当たり100円としております。平成15年12月、平成18年8月の2回にわたり、構成町村の衛生担当課長によります原価計算が算出され、今年度、衛生手数料等適正化委員会に対し諮問を行い、110円が適正料金であるとの答申がなされ、理事会で慎重に審議しました結果、その改定を平成20年10月1日からとすることで、本日ご提案させていただくものでござい

す。

なお、事務局より補足説明をさせますので、ご審議の上、原案のとおり可決賜りますようお願い申し上げます。

議長 事務局長、どうぞ。

林事務局長 ただいまの18号議案につきまして、補足の説明をお願いします。

代表理事から申しあげましたように、現行の100円に10%、10円を平成20年10月1日から改定をしたいということでございます。

今回の改定につきまして、若干、11月6日の説明会においても説明申し上げているところがありますが、重複しない範囲でご説明申し上げたいと思います。今まで、くみ取り料金の住民負担の問題については各種いろいろご意見を伺っていたことと思います。今回の改正に当たりまして、適正化に当たりましてですね、理由を幾つか申し上げたいと思います。

現在のし尿の手数料につきましては、平成9年にいわゆる67円から80円に引き上げをされました。それについては、過日の資料には詳しく申し上げているところがございます。このときもですね、改定のいわゆる業者の皆さんとの交渉協議の中でですね、非常に厳しいあるいはご議論いろいろされたわけですが、その当時10リットル174円が適正価格、料金であるということが相互で確認をされですね、3年ごとに見直しをしまして、ようやく若干引き上げよう、こういったことを当時の組合でご承認、代表理事から報告され、新聞紙上でも発表されたことです。しかしながら、その後ですね、3年半後、平成13年4月から現行の100円に改定をされたわけでありまして。そのときの条件としましては、計量に係る、いわゆるメーターのついた車を用意するとうようなことも附帯条件にされたところがございます。以来、今日まで約6年半経過をしてですね、これまで毎年業者の方からも、要望はございましたけれども、ご承知のように意見があったり、あるいは地方財政、住民生活の中で非常にこのこと自身がですね、検討することに至らなかったわけでありまして、一昨年11月4日に基づきましてですね、十分業者の意向も踏まえてですね、本来的に適正な価格はどうかということを検討して回答してまいったわけです。その回答に基づきまして、今年度見直し作業をしまして各市町村長から委員さんを代表していただきまして、また大学の公共政策の専門の先生にも入っていただきましてですね、今回、最終的に114円何ぼかの積算があったわけでございますけれども、実際に114円が適当ではないかという答申を受けまして、最終的に理事会としても答申を十分に尊重してですね、来年10月から十分住民の皆さんの意向も理解も含めて期間を設けて実施いただきたいということから、今回の内容ということですよ。

今回の決定につきましてはですね、いわゆる原価方式というのをとっています。非常にですね、公共工事でありましたら、積算基準とかありますけれど、収集運搬に関する基本的な基準というのが明確なものがはっきり言ってございません。しかしながら、今日いろんな、いわゆるごみなりですね、そういったものによりまして、民間委託が若干進んでいるけれども、私自身もいろいろ

る経験を踏まえまして、そういった一定の業務をこなすために適正なものはどうなのかということとを計算をしてみたいところでございます。

今、思うにですね、収集運搬につきましては、業務の内容につきましては、人件費、それから燃料費、消耗品。車の維持費、減価償却費、それから諸経費、それから消費税そういったところでございますけれども、現在4.2回往復するということでいわゆるバキューム車4.2回往復する、これは平成9年当時に本来の郡内の管内としてし尿処理人口が多い時期でございましたけれども、これが当時の根拠でございます。これらを基本にして1,800リットル、これを245日間するというので、10リットル当たりの単価を出しているものでございます。人件費につきましては、運転作業員、公共工事設計単価、これを平成19年度版を計上しております。運転手は1万4,600円、作業については1万4,000円と。ボーナス等については、いわゆる公務員並のものの考え方でありまして、それから、軽油につきましては、11月現在で、平成19年10月現在120円を上げております。

それから、減価償却の車の管理でありますけれども購入価格です。新車1台630万、それから償却期間についてはですね、これは普通、車というのは5年になるんですけども、この契約がですね、いわゆる委託契約が3年の経過になりましたら償却分還元できるんですけども、こうした料金改正に反映する場合についてはですね、それはできませんので、現在車を所有されている自治体、運用されている平均をとらせていただきました。

それから諸経費につきましては、かなりいろんな考え方がございましたけれども、直接的経費、あるいは間接的経費ということで、いわゆる事務所経費が大部分になると思いますけれども、これを20%充てているというところでございます。そういった結果が、今回の原価計算に基づきですね、適正化価格を私たちが住民説明できるようなコスト計算をしているところでございます。

それから、生活環境衛生関係ですね、公共下水道あるいは合併浄化槽、し尿くみ取り、こういった3つの形態がございます。その中でそれぞれのシステムなり運営の中身が全然違うわけでございますけれども、やはり生活衛生環境を向上していこうというんでは、一緒のことになりますけれど、それらの3つの方式、同じ大きな差がないようにと、あるいはご指摘をいただいているところでございます。

そしたら先ほどのですね、資料の7ページをちょっとごらんいただきます。

簡潔に答えます。それではですね、京都府下のですね、市町村の実態を調査いたしました。ごみについては、単純な。

(テープ反転)

議長 それでは、再開いたします。

提案理由の説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

ございませんか。

(「なし」の声あり)

9番山口議員 異議なかったら賛成でいくで。

議長、こんなんでも採決とられても構わへんか。当ててください。

議長 山口議員どうぞ。

9番山口議員 1つ提案ですよけど、この重要な住民に対して、たとえ10円でも負担をかけるということは、物すごい重要な問題でございますので、この採決については、議運なり開いてもらって、今後の対応策ということで、1つ検討お願いしたいなと思っていますので、よろしくをお願いします。

議長 わかりました。

それでは、暫時休憩します。

議運を開きます。

先ほどのメンバーで。

9番山口議員 時間延長できますか。

議長 あと2件残っておりますので、会議規則第9条の規定に基づきまして午後5時までとなっておりますが、2件の案件が終わるまで審議を行いますので、会議規則9条の第2項によりまして、変更いたしたいと思います。

暫時休憩します。

(暫時休憩)

議長 それでは再開いたします。

先ほど、議運を開いていただきまして、こういう案件につきましては重要な案件でございますので、特別委員会を設置するという事で全会一致で決まりましたので、特別委員会を設置いたしたいと思います。

それで委員のメンバーは全員と、議員さん全員ということで、正副委員長の選考をしなければなりませんので、先ほどの議運のメンバーで選考をいたしたいなとかように考えてますので、議運にお願いして決定していただいてもよろしいですか。

9番山口議員 それでええけどな、とりあえず、その特別委員会を設置していいんかどうかだけでも聞いて。それを聞かんことには。

議長 それでは採決いたします。

特別委員会の設置の件につきまして、皆さんの同意を得たいと思いますが、採決、挙手をお願いします。

(全員挙手)

議長 はい、ありがとうございます。

そしたら、特別委員会を設置することに決定いたしました。

ここで正副委員長の選任をいたしたいと思います。

暫時休憩いたします。

3番酒井議員 その前にちょっと質問させてください。

議長 はい、どうぞ。

3番酒井議員 休憩中ですか。

議長 暫時休憩します。

意見としてですか、どちらですか。

3番酒井議員 特別委員会の設置そのものは賛成なんですけど、前提として18号議案はいわゆる棚上げと、採決をしないということなんです。その確認をお願いしたいんです。

議長 先ほど申し上げましたように、重要案件でありますので、特別委員会を設置していただきまして、特別委員会に付託をして議論を重ねていただいて、委員長報告によって、今後、期間はありますので、そこで採決に移っていきたいということです。

継続審査になるわけです。

(暫時休憩)

議長 それでは、再開いたします。

議会運営委員会において、選考をいたしました結果、委員長には和束町の山口勝己議員を、副委員長には木津川市の山本喜章議員を選任いたしましたのでご報告いたします。

議長 採決いたします。

正副委員長につきまして、皆さんの同意を得たいと思いますが、採決、挙手をお願いします。

(全員挙手)

議長 はい、ありがとうございます。

委員長には和束町の山口勝己議員を、副委員長には木津川市の山本喜章議員を選任することに決定いたしました。

(テープ途切れ)

議長 日程第12、議案第19号、平成19年度相楽郡広域事務組合一般会計補正予算(第1号)の件を議題とします。

議案の朗読を省略し、直ちに代表理事より提案理由の説明を求めます。木村代表理事

木村代表理事 それでは、議案第19号を提案させていただきます。議案第19号、平成19年度相楽郡広域事務組合一般会計補正予算(第1号)について

平成19年度相楽郡広域事務組合一般会計補正予算(第1号)を、別添のとおり定め

ます。

平成19年11月19日提出

相楽郡広域事務組合代表理事

提案理由でございます。

今回の補正は、歳入歳出それぞれ150万8千円を増額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ6億7,980万8千円とするものでございます。

まず、歳入でございますが、繰越金では、前年度繰越金の確定により133万8千円を増額することとし、預金利息を17万円増額するものであります。

次に、歳出でございますが、総務費の一般管理費で25万7千円の増額、予備費で125万1千円を増額するものであります。

よろしくご審議をいただき、原案のとおり可決賜りますようお願い申し上げます。

議長 提案理由の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

(「なし」の声あり)

議長 これで質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」の声あり)

議長 討論を終わります。

これより採決を行います。

議長 討論を終わります。

採決を行います。

議案第19号 平成19年度相楽郡広域事務組合一般会計補正予算(第1号)の件を採決します。

この採決は挙手によって行います。

原案のとおり決定することに賛成の方は、挙手を願います。

(全員挙手)

議長 ありがとうございます。

挙手全員であります。

よって、議案第19号 平成19年度相楽郡広域事務組合一般会計補正予算(第1号)の件は、原案のとおり可決いたしました。

9番山口議員 議長

議長 山口議員、どうぞ。

9番山口議員 この委員会案件ということで皆さんご承認をお願いしたいなと思います。

先ほどの閉会中の継続審査ということで出したいと思っております。

会議規則第37条の規定より、申し出をいたします。

1. 事件 し尿くみ取り手数料について。2. 理由 適正な手数料の料金改定について検討するため、適正な手数料の料金改正の実施時期を検討するため、全員をもちまして、審議をしたいと思っておりますので、この文書を提出したいと思っております。ということで、そのぐらいです。

議長 ただいま山口特別委員会委員長から閉会中の継続審査申出書が提出されましたので、閉会中の継続審査をやっていただくということで、報告を申し上げます。

日程13号に追加しておきます。

ご異議ございませんね。

(「異議なし」の声あり)

議長 ありがとうございます。

以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

これをもちまして、平成19年第2回相楽郡広域事務組合議会定例会を閉会いたします。

本日は、長時間にわたり、慎重なご審議を賜り大変ありがとうございました。

これから、各市町村議会定例会等で何かと慌ただしい時期を迎えておりまして、また寒さも日増しに厳しくなっております。

議員の皆様及び理事者の皆様の今後のますますのご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、本日は大変ご苦労さまでございました。

ありがとうございました。

(午後 5時30分 閉会)

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

相楽郡広域事務組合議会議長 奥野 卓 士

会 議 録 署 名 議 員 阪 本 明 治

” 山 本 喜 章